

隠岐の島をつなぐ大屋根 -海・空・人をつなぐ新たなランドマーク-



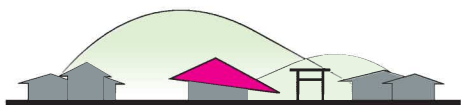
大社分院通りに対して開き、まちとつながり賑わいを生み出し

■山並みとまち並みを継承する三角屋根 【テーマ1.1】

隠岐の島の自然や文化を大切に、山と海をつなげるような象徴的な空間を作り出したいと考えています。提案するのは、三角形の大屋根を持つ建物です。この屋根は、隠岐の島を代表する埋山や大満寺山といった山々の形に合わせた勾配を持っており、島の景色や自然に溶け込むようにデザインされています。

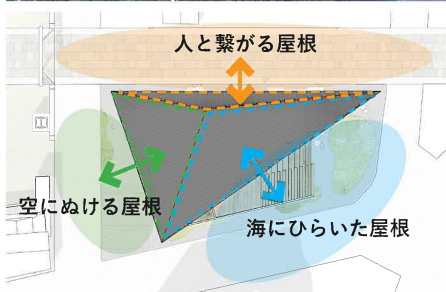
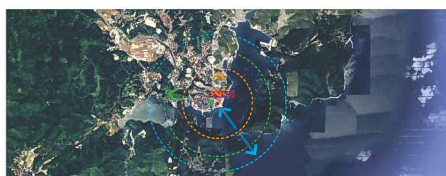


その大屋根は、周囲の町並みと調和しながらも、地域の特徴を生かした存在感を持っています。建物全体が島の自然と一体感を感じさせ、訪れる人々に隠岐の島の美しさや魅力を直接感じてもらえるような空間を目指しています。大屋根の下では、地域の風景と歴史を感じることができ、自然と文化が一体となった空間が広がります。これにより、隠岐の島の深い魅力を実感できる場を提供します。



■三角大屋根の配置計画と関係性 【テーマ1.2】

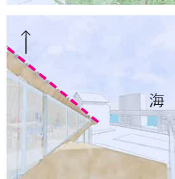
山や海など周辺の自然環境や街並み、島の持つレガシーを踏まえ敷地に対して特徴的な三角形のボリュームを配置し、3つのエリアと呼応する屋根を生み出します。



■大屋根が生む多様な場 【テーマ1.2】



「人をつなげる屋根」
整備される大社分院通りに対して開き、まちとつながり賑わいを生み出します。屋根は通りと並行し水平ラインを強調しながら大社へとつながる低い軒を計画し人々に親しみ持つてもらえるよう計画しました。



「海にひらいた屋根」
海側には配置によって引きを作り、人々の居場所となる広場を計画します。屋根は1階から2階へと緩やかにつながりながら広がり、海への眺望を生み出します。



「空にぬける屋根」
敷地西側にはコアを集約し、効率的な利用を実現するとともに、出雲大社西郷分院に対して、軒先の高さを抑えることで大社に対する圧迫感を軽減します。

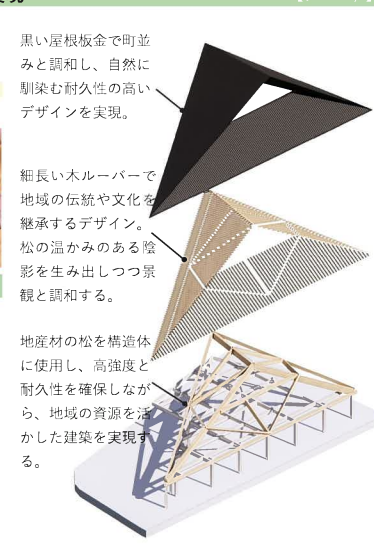
■隠岐の島産木材を活用し、地域の誇りとなる施設を実現 【テーマ2.4】

「機之杉」や「黒松」をはじめとする地産材を積極的に活用し、地域の自然資源を活かした持続可能な建築を目指します。構造材としての利用にとどまらず、内部仕上げや什器にも地産材を取り入れることで、訪れる人々が木の温もりと質感、地産材の魅力を感じられる空間を創出します。



■地産材を活かした大屋根構造体 【テーマ2.4】

構造計画では安全性を最優先に考えながら、大屋根のもとで広がる心地よい空間を実現するため木造ラーメン構造フレームをベースとして計画します。力強いフレーム構造と対比的に、小さな部材を連続的に組み合わせた梁を配置することで、軽やかさとダイナミクスを兼ね備えた内部空間を形成します。空間の中で繊細な木の表情や陰影の変化を最大限に引き出し地産材の魅力を存分に感じられる設計とします。地域の風土に根ざした木材を活かすことで自然と調和した建築を実現し、訪れる人々に心地よい居場所を提供するとともに、地域の木材産業の活性化にも寄与する計画を目指します。





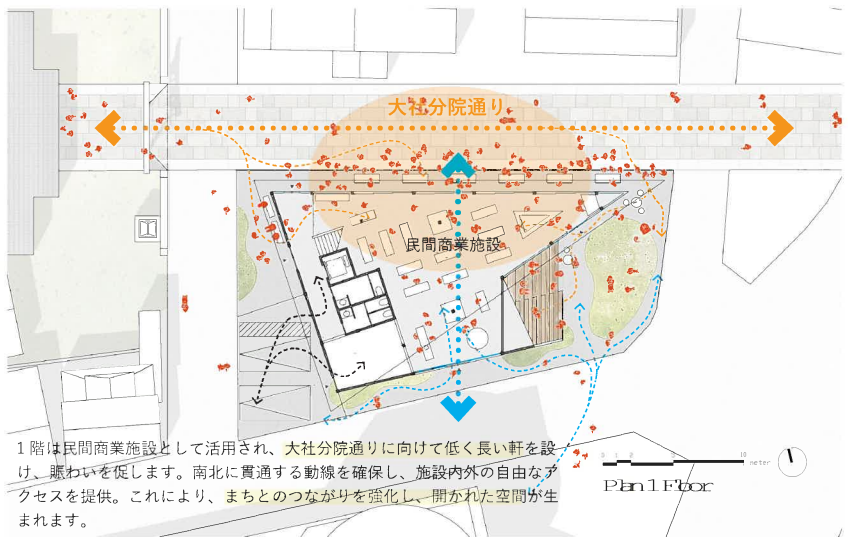
海側にひらいた広場と連続する大階段により地域の賑わいを生み出す

■賑わいを生み出す同線計画

【テーマ1.2.3】

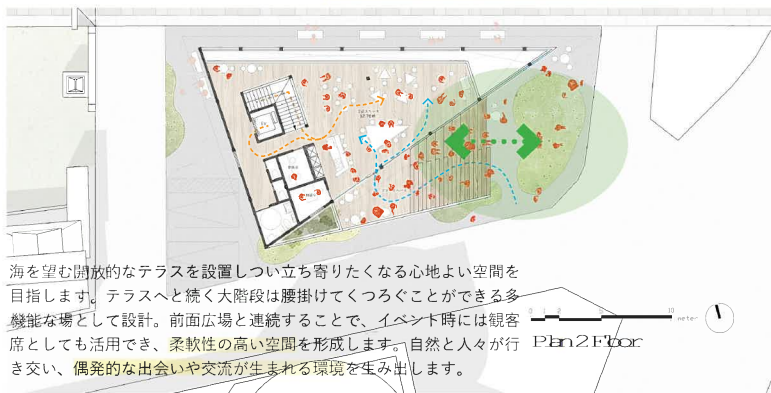
■民間事業者との協働による魅力的な施設の実現

【テーマ3】



1階は民間商業施設として活用され、大社分院通りに向けて低く長い軒を設け、賑わいを促します。南北に貫通する動線を確保し、施設内外の自由なアクセスを提供。これにより、まちとのつながりを強化し、開かれた空間が生まれます。

フレキシブルに使える内部空間の確保を重視します。多様な使い方に対応可能な空間とすることで、事業形態の変化にも柔軟に適応し、より多くの利用者にとって魅力的な施設となるよう計画します。分院通りや広場に対してにぎわいのある場へとつながる大開口を設けることで、施設内外の一体的な活用を促進します。施設が地域コミュニティに溶け込み、賑わいの創出や施設の魅力向上につながる環境を整備します。また、意見を聞きながら進める体制を構築し、関係者と緊密に連携しながら計画を進めます。官民双方の知見を活かしたオープンな議論を行い、持続可能で質の高い公共空間と商業空間の実現を目指します。



海を望む開放的なテラスを設置しついで立ち寄りたくなる心地よい空間を目指します。テラスへと続く大階段は腰掛けてくつろぐことができる多機能な場として設計。前面広場と連続することで、イベント時には観客席としても活用でき、柔軟性の高い空間を形成します。自然と人々が行き交い、偶発的な出会いや交流が生まれる環境を生み出します。



だれでもアクセスできる海を望むテラス



山並みへ開き眺望と光を導くハイスайдライト

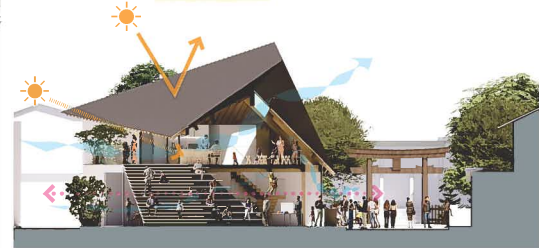


大屋根の元で人々が共に過ごし、つながりを育む交流の場

■パッシブデザインを取り入れた計画

【テーマ4】

南側に伸びる底は、夏季の強い日射を効果的に遮蔽し、冬季の低い日射角を活かして室内へ採光することで、冷暖房負荷の低減を図ります。1階から2階にかけた吹き抜け空間とハイスайдライトにより、効率的な自然通風を確保し、適切な機械設備設計を合わせて行う事で快適な室内環境を実現します。また、断熱を十分に施し、かつ開口部の断熱性能向上を図る事で建物負荷を軽減します。これらの施策を通じて、環境負荷の低減と居住性の向上を両立する持続可能な建築を目指します。



■わかりやすく逃げやすい災害に強い計画

【テーマ2.4】

敷地内の舗装には透水性舗装を使用し、雨水浸透を促進します。必要に応じて水貯留施設を設置し、水害に強い建物を目指します。動線計画はシンプルで分かりやすく、避難出入口を各方向に確保し、スムーズな避難を実現します。